

「やさいのとりいれをしよう」(4時間)

＜期待する子どもの姿＞
自分たちの手で育てた野菜を収穫し、収穫の喜びを味わいながら野菜パーティーを行う。

野菜パーティーの計画を立てよう。(1時間)

トウモロコシもエダマメも実が入ってきたね。

(ミニトマトはすでに何度か食べている。)

野菜の取り入れをしよう!

パーティーをして食べよう!

パーティーの計画について話し合おう。

係を決めよう。トウモロコシをゆでる係

・エダマメをゆでる係

・会場を作る係

感謝の言葉を発表しよう。野菜の歌も作ろう。

野菜のものまねをしよう。野菜のクイズをしよう。

係ごとに活動の計画を立てる。

野菜を収穫して野菜パーティーをしよう。(3時間)

＜まずは、みんなで収穫＞



こんなに大きなトウモロコシができたよ。

ミニトマトもたくさんなっていたよ。

エダマメはあまりとれなかったね。

まだまだあるよ。

＜エダマメグループ＞

＜トウモロコシグループ＞

どの顔も収穫の喜びで輝いていた。
<ミニトマト、会場グループ>



泥をしっかりと落とすよ。

塩を入れてゆでるときれいに色が出るよ。

テーブルを出してお皿を並べよう。

野菜の絵も貼ってね。

ミニトマトを洗ってきたよ。

＜どの顔も真剣そのもの＞

準備は整った! さあ、みんなで野菜パーティーだ!!
<自分たちが作った野菜は、やっぱり数高だ!>

教師の援助・支援
○ 給食のおばさんたちに協力を依頼する。
○ 活動の場所を確保する。



「あきのやさいをそだてよう」(2時間)

＜期待する子どもの姿＞

自分の育てたい秋の野菜の種まきをする。

秋の野菜の種まきをしよう(2時間)

先生、かたづけた畑にまた、野菜を作ろうよ。

自分たちのプランターにも何か作ってみたいな。

これからは、どんな野菜ができるのか調べよう。

ぼくはダイコンをまきたいな。

わたしはホウレンソウにするわ。

今度は、畑に直接まこう。

水をたっぷりやらないとね。

芽が出たら、間引きをするんだって。

種が小さすぎてどこかに行っちゃったよ。

教師の援助・支援
○ 子どもたちの希望に応じて種を購入する。
○ 耕運機で畑を耕し、肥土をいれる。



＜畑に蒔いた野菜＞
ダイコン、ニンジン、ホウレンソウ、レタス、ラディッシュ、小カブ

＜プランターに蒔いた野菜＞
ビタミンナ、小カブ、ラディッシュ、サラダホウレンソウ

＜願望に育っている秋の野菜＞

＜実践の中で＞

- 2学期が始まるとすぐに、畑に歩いて生育状況を観察すると、すぐにも収穫しなればならないほどに育っていたので、収穫と野菜パーティーの計画を立てた。
- 収穫の計画、係の分担、パーティーの内容および進め方に至るまで、すべて子どもたちの

の手によって進めることができたことに、この活動の意義があった。

○ 計画のとま、歌を歌うことや感謝の言葉、クイズをやるなどの意見を出した子どもは、それぞれに仲間を集めて、自分の責任を果たすことができた。

○ 野菜の調理の活動では、3人の教師が活動場所ごとに分かれて、子どもたちの援助に当たった。また、給食のおばさん4人にも手伝ってもらった。

○ 子どもたちは自分の役目を十分に果たして野菜パーティーを盛り上げることができた。

○ 4月からの野菜の栽培、収穫、野菜パーティーの楽しさを再び味わいたいということ、秋の野菜も作ろうということになった。生活科の時間で計画と種まきをし、あとは、朝の時間、休み時間及び放課後の時間に活動することとした。

○ 一人一人に自由に活動させて

- 「活動プラン」を弾力的に扱うようにしたので、子供は「自分の考えたことがやれる」という気持ちに支えられ、学習活動がどんどん広がっていった。
- 児童一人一人の思いや願いを生かす活動の構成と工夫について
- 活動時間を十分確保することに
- より子どもの発想が広がった。

- (二) 期待する子どもの姿
「自分たちの手で育てた野菜を収穫し、収穫の喜びを味わいながら、野菜パーティーを行う。」
- (三) 活動の実際 (資料参照)
- (四) 研究の成果
活動のきっかけの工夫について(略)

- (二) 期待する子どもの姿
「自分たちの手で育てた野菜を収穫し、収穫の喜びを味わいながら、野菜パーティーを行う。」
- (三) 活動の実際 (資料参照)
- (四) 研究の成果
活動のきっかけの工夫について(略)

- 五、活動実践例
「たくさんあれ」(二年生)
(総時数 十三時間)
活動のまとめりII)
「やさいのとりいれをしよう」(略)
- 六、今後の課題
○ 共感的な立場に立った子ども一人一人のよさの把握と援助・支援のあり方
(一) 学級の独自性を生かした活動プランの作成
(二) 子どもたちの認識を深めるための一人一人のよさを生かす学習活動の構成

※ 放し飼いができるスペースがあり、チャボ、ウサギ、モルモット等を飼育。

④ 栽培施設

○ なかよし学習園

○ すくすくランド

※ 低学年だけでなく三年生以上でも栽培活動を行う。

五、活動実践例

「たくさんあれ」(二年生)

(総時数 十三時間)

活動のまとめりII)

「やさいのとりいれをしよう」(略)

(二) 期待する子どもの姿

「自分たちの手で育てた野菜を収穫し、収穫の喜びを味わいながら、野菜パーティーを行う。」

(三) 活動の実際 (資料参照)

(四) 研究の成果
活動のきっかけの工夫について(略)

七、今後の課題

(一) 共感的な立場に立った子ども一人一人のよさの把握と援助・支援のあり方

(二) 学級の独自性を生かした活動プランの作成

(三) 子どもたちの認識を深めるための一人一人のよさを生かす学習活動の構成

も、友達との関わりの中で活動していくことがわかった。

○ 「やりたい」というだけでなく自分で実際にやれるかどうかの見通しを持たせた上で活動を認めるようにしたところ、子どもの手で可能なものに絞られていった。

○ 飼育・栽培活動では、「自分の」という気持ちが持てるような手だてを工夫したので、世話をしている動物や植物に対して愛情を持って世話をするようになった。(略)

(三) 教師の援助・支援について
○ お城山全体を活動エリアにした

り、川の中で活動したり、交通量の多い地域で活動したりする場合はティーム・ティーチングを組んで援助・支援にあたったので、自然や地域の人々に対しても、より積極的に関わっていくこうとする姿が多く見られるようになった。

(四) 学習活動を支える環境の整備(略)

構成